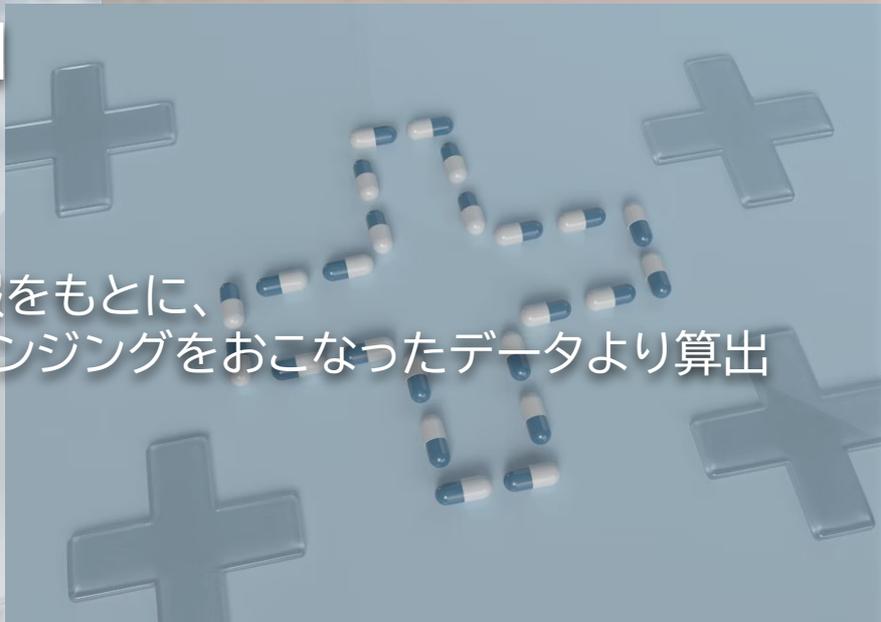




全国医療施設 開業ランキング レポート ver1

＜調査方法＞
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の医療施設に関する調査結果を発表いたします。

※保健適応の病院・診療所のみで集計。

全国病院&診療所開業ランキング 2025年1月~3月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年1月~3月	…P4
全国病院&診療所開業ランキング	…P5
全国で863件が新規開業、都市部に集中傾向	…P6~7

全国病院&診療所 月別開業ランキング

全国病院&診療所 月別開業ランキング	…P9
なぜ“3月開業”が多い？4つの視点から見える医療業界の傾向	…P10
医療機関「開業ラッシュ」の裏側で、倒産・閉院が過去最多に	…P11

全国診療所 診療科目別開業ランキング 2025年1月~3月

全国診療所 診療科目別開業ランキング	…P13
診療科目別ランキング × 医療トレンド × 地域特性	…P14~15
全国歯科診療所 開業ランキング	…P16
なぜ今、都市部に歯科が集まるのか？	…P17
地方ではなぜ歯科開業が進まないのか？	…P18

全国医療開業レポート ver1 まとめ

医療の進化と挑戦 — 開業データで読み解く“いま”と“これから”	…P20
医療を、未来へつなぐ。	…P21



全国病院&診療所開業ランキング
2025年1月~3月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年1月~3月

全国の医療業界は、人口構造の変化や医療ニーズの多様化に対応しながら、地域医療の再構築に向けた動きを強めています。高齢化の進行や予防医療の重視といった社会的背景のもと、身近で質の高い医療サービスを提供する診療所や専門クリニックの新規開業が、各地で相次いでいます。

本レポートでは、2025年1月~3月に開業した病院・診療所について、都道府県別の開業件数を分析。地域ごとの医療需要や都市構造の違いが、開業動向にどのような影響を与えているのか、独自データをもとに可視化しました。



2025年1月~3月の全国病院&診療所開業数ランキングを発表いたします。トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(190件)
人口の多さに加え、国内外から患者が集まる高度医療ニーズの高いエリア。特に23区を中心に、専門性を持った診療所や自由診療クリニックの出店が目立ちます。



2位 大阪府(119件)
都市部と郊外の双方で開業が進み、特に大阪市内では駅近の商業ビルや医療モールでの出店が目立ちます。生活導線を意識した立地選びが多く、利便性重視の傾向がうかがえます。



3位 神奈川県(68件)
在宅医療や訪問診療に対応するクリニックのニーズが高まっており、“かかりつけ医”として地域に根ざす診療所の出店が増えています。



4位 千葉県(66件)
首都圏のベッドタウンとしての成長が続く中、住宅地周辺での開業が目立ちます。特に子育て世代の多い地域では、小児科・内科などの地域密着型クリニックの出店が活発です。



5位 埼玉県(41件)
都心へのアクセスが良い住宅地を中心に、新規開業が進行。整形外科や皮膚科、小児科など、日常的な診療ニーズに応えるクリニックの出店が活発です。

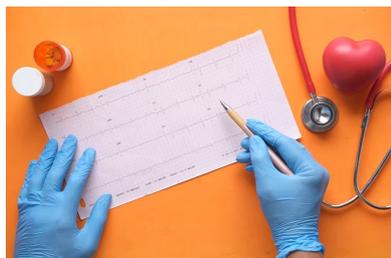
全国病院&診療所開業ランキング

2025年1月～3月の全国の病院&診療所開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年1月～3月 全国開業件数 **863件**

病院&診療所 / 2025年1月～3月			
	都道府県	開業数	
	全国ALL	863	
	22 栃木県		7
1	東京都	190	25 宮崎県
			6
2	大阪府	119	25 熊本県
			6
3	神奈川県	68	25 静岡県
			6
4	千葉県	66	25 奈良県
			6
5	埼玉県	52	29 愛媛県
			5
6	愛知県	34	29 岐阜県
			5
7	福岡県	33	29 香川県
			5
8	兵庫県	32	32 高知県
			4
9	京都府	25	32 秋田県
			4
10	北海道	16	32 新潟県
			4
11	三重県	15	32 長野県
			4
12	茨城県	12	32 島根県
			4
12	宮城県	12	32 富山県
			4
12	広島県	12	38 佐賀県
			3
12	鹿児島県	12	38 山形県
			3
16	沖縄県	10	38 山梨県
			3
16	滋賀県	10	38 青森県
			3
18	岩手県	9	38 大分県
			3
18	群馬県	9	38 和歌山県
			3
18	長崎県	9	44 山口県
			2
21	福島県	8	44 鳥取県
			2
22	岡山県	7	44 徳島県
			2
22	石川県	7	44 福井県
			2

全国で863件が新規開業、都市部に集中傾向



2025年1月～3月に全国で開業した病院・診療所の数は863件にのびりました。
都道府県別では、1位東京都(190件)、2位大阪府(119件)、3位神奈川県(68件)と続き、上位5都府県で全体の6割近くを占める結果に。都市部を中心とした開業集中が続いています。

地域医療ニーズの変化と開業の傾向

◎ 高齢化と“かかりつけ医”ニーズの拡大

総務省の統計によれば、2025年1月時点で65歳以上の高齢者人口は3,600万人を超え、全人口の29%超。

それに伴い、地域密着型の“かかりつけ医”としての診療所や、在宅医療・訪問診療に対応した施設の開業が都市部・郊外問わず増加傾向にあります。

特に東京都・神奈川県などでは、通いやすさ・利便性を重視した駅近のテナントや、マンション1階部分など生活動線に沿った開業が目立ちます。

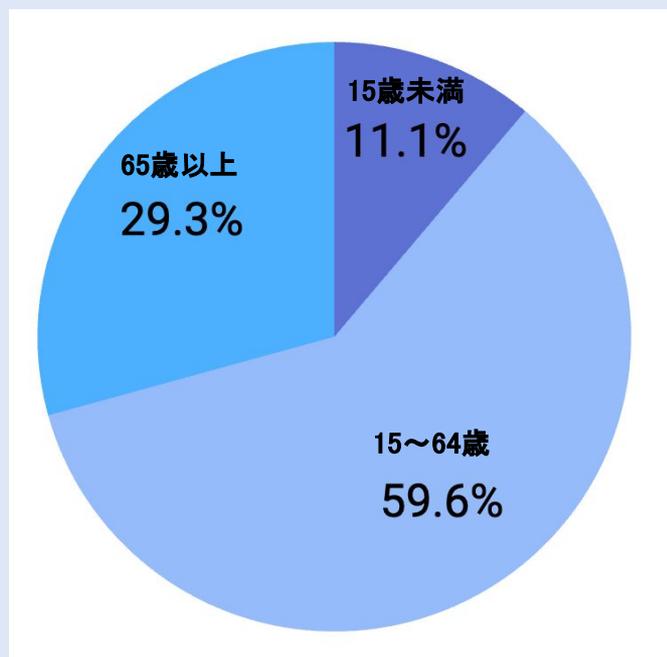
2025年1月時点の人口推計

	人口数	割合
15歳未満人口	13,742,000	11.1%
15～64歳人口	73,612,000	59.6%
65歳以上人口	36,197,000	29.3%

2024年10月時点で、日本の総人口に占める”65歳以上の割合は29.3%”と、過去最高を更新しました。

一方で15歳未満は11.1%と低水準にとどまり、少子高齢化の進行が一層鮮明になっています。

出典:総務省統計局「人口推計(2025年(令和7年)1月確定値)」



全国で863件が新規開業、都市部に集中傾向

◎ 多様化する診療科と専門クリニックの台頭

開業する診療所の内容も多様化しています。

美容皮膚科、心療内科、自由診療型内科など、特定領域に特化した“専門クリニック”の開業が増加。

特に都市部では、SNSや口コミによる集客を前提とした自費診療モデルが拡大しています。

加えて、生活習慣病や女性特有の症状に特化した「ヘルスケア型クリニック」も増えており、従来型の総合診療所とは異なるニーズに応える施設が支持を集めています。

◎ 訪日外国人・インバウンド医療の対応進む

2024年の訪日外国人旅行者数は3,686万人に達し、2019年を上回る水準に回復。

こうした動きに対応し、英語・中国語などの多言語対応や、キャッシュレス・オンライン予約に対応した「インバウンド対応型クリニック」の開業も進んでいます。

特に東京・大阪・福岡といった都市では、外国人向けの自由診療クリニックや短期滞在者向けのトラベルクリニックなどが開業事例として確認されています。

変わりゆく医療のかたちと地域のこれから



■ 地域間格差と医療資源の偏在

開業は都市部に集中する一方で、地方では開業が数件といった地域格差が浮き彫りに。地方自治体による支援制度や医師誘致策がますます重要になります。

■ 女性医師・若手医師の独立支援

働き方の多様化を背景に、女性医師や若手医師による開業も増加。育児と両立可能な診療スタイルや、チーム医療型のクリニックが注目されています。

■ DX・デジタル化への対応

オンライン診療、電子カルテ、AI問診などの導入を前提とした“デジタル前提型クリニック”が登場しつつあり、今後の競争力のカギとなる可能性があります。

全国病院&診療所 月別開業ランキング



全国病院&診療所 月別開業ランキング

次に、2025年1月～3月の全国の病院&診療所の開業数を月別に比較し分析してみました。
結果は次の通りです。

病院&診療所 / 2025年1月～3月					
	都道府県	合計	2025-01	2025-02	2025-03
		863	261	249	353
1	東京都	190	58	48	84
2	大阪府	119	26	17	76
3	神奈川県	68	19	19	30
4	千葉県	66	18	22	26
5	埼玉県	52	15	15	22
6	愛知県	34	13	11	10
7	福岡県	33	12	12	9
8	兵庫県	32	14	7	11
9	京都府	25	4	15	6
10	北海道	16	6	6	4
11	三重県	15	5	3	7
12	茨城県	12	3	1	8
12	宮城県	12	3	4	5
12	広島県	12	3	2	7
12	鹿児島県	12	4	6	2
16	沖縄県	10	3	4	3
16	滋賀県	10	4	3	3
18	岩手県	9	3	1	5
18	群馬県	9	2	5	2
18	長崎県	9	1	4	4
21	福島県	8	5	1	2
22	岡山県	7	4	1	2
22	石川県	7	1	4	2
22	栃木県	7	3	4	0
25	宮崎県	6	3	3	0
25	熊本県	6	4	0	2
25	静岡県	6	2	3	1
25	奈良県	6	2	1	3
29	愛媛県	5	3	1	1
29	岐阜県	5	2	1	2
29	香川県	5	3	2	0
32	高知県	4	2	1	1
32	秋田県	4	1	3	0
32	新潟県	4	0	4	0
32	長野県	4	1	3	0
32	島根県	4	1	2	1
32	富山県	4	1	1	2
38	佐賀県	3	2	1	0
38	山形県	3	1	0	2
38	山梨県	3	1	2	0
38	青森県	3	0	2	1
38	大分県	3	0	2	1
38	和歌山県	3	1	1	1
44	山口県	2	0	1	1
44	鳥取県	2	0	0	2
44	徳島県	2	2	0	0
44	福井県	2	0	0	2

2025年1月～3月に開業した病院・診療所は全国で863件。
そのうち3月に開業した件数は353件と、全体の約41%を占め、1月(261件)、2月(249件)を上回る結果となりました。

なぜ“3月開業”が多い？4つの視点から見える医療業界の傾向

特に東京(3月:84件)、大阪(3月:76件)では3月に開業数が集中しており、年度末に向けた開業準備のピークが色濃く表れています。

■ 1. 診療報酬改定や制度変更前に滑り込む意図

診療報酬(保険点数)は2年に1度、4月に改定されます。2025年も改定年にあたり、医療機関の収益構造に大きく影響する内容が含まれていました。

とくに初診料・再診料や、オンライン診療、在宅医療などの診療報酬の見直しは開業計画に直結します。不透明な改定後の制度よりも、事前に把握できるルールでスタートしたいという心理が、3月開業を後押ししています。

■ 2. 医師・スタッフの年度切り替えにあわせた独立

医療業界でも人事異動・定年退職は3月が区切りです。これにより、勤務医が「退職→開業」へと踏み出しやすい時期であるほか、開業を支える看護師・事務スタッフの採用もしやすいタイミングとなります。

また医師会や行政への各種届け出、保険医療機関の指定申請なども、4月稼働を前提に3月中の開業・登録が多くなる要因です。

■ 3. 住民の移動＝医療ニーズの変化

企業の異動や転勤、進学などにより4月は生活環境が大きく変わるタイミング。新生活を迎えるタイミングでかかりつけ医を探す人が増えるため、都市部を中心に“新たな医療ニーズ”が一気に生まれます。

この動きに先んじるために、駅近や新興住宅地など、需要の高まりが見込めるエリアでの3月開業が選ばれていると考えられます。

■ 4. 補助金・助成制度の年度末締め切り

医療機器購入・内装費用に対する補助や、地域医療確保に向けた自治体の独自支援制度には、多くが「年度末締め切り(3月末)」が設定されています。

3月中に開業することで、補助金対象として認定されやすくなるメリットがあるほか、資金調達の観点でもタイミング的な合理性があるといえます。

こうした「制度」「人材」「需要」「資金」の4つの要因が重なり、3月は医療機関の「開業ラッシュ」となりやすい時期と言えます。

医療機関「開業ラッシュ」の裏側で、倒産・閉院が過去最多に

制度変更・後継者難・経営悪化…“ふるい落とし”の時代が到来

2025年1～3月にかけて、全国で863件の病院・診療所が新規開業しました。とくに3月には353件と開業数が集中しており、制度改定や人事異動などの影響が色濃く表れています。

しかしその一方で、医療機関の倒産・休廃業も増加しており、「開業」と「撤退」が入り混じる状況となっています。

■医療機関の倒産・閉院は過去最多水準に

2024年に倒産や休廃業・解散に至った医療機関は合計786件。これは2000年以降で最多であり、過去10年の中でも際立って高い水準です。このうち診療所は618件、歯科医院は145件、病院は23件となっています。

出典：東京商工リサーチ「医療機関の休廃業・解散動向（2024年）」

■倒産・閉院の背景にある2つの構造課題

●高齢化と後継者不在

診療所経営者の約55%が70歳以上で、後継者未定が約半数という深刻な状況。自然廃業が急増しており、開業よりも「引き継ぎ」の仕組みが必要とされています。

出典：船井総研「医療業界の後継者問題とM&A動向」

●経営環境の悪化

人件費・資材費の高騰、保険診療の収益減少などで、採算性が取れず廃業を選ぶケースが増加。特に歯科・整形外科などは価格競争の影響を強く受けています。

出典：日本医療経営学会「地域医療機関における収益性の現状分析」

これからの地域医療の鍵は「承継」と「持続性」

制度改定や医師偏在の是正に加え、地域医療を守るためには次のような対応が必要なのではないでしょうか。

- M&Aや第三者承継の制度整備（医師・事務職の引き継ぎも含めて）
- 経営DX（電子カルテ・予約管理・業務効率化）の導入
- 地域主導の支援制度の活用と柔軟な補助政策

3月の“開業ラッシュ”の裏で進む、医療機関の“静かな淘汰”。制度・人材・経営課題が複雑に絡み合うなかで、今後の医療体制は「新たな開業」と「持続可能な継承」の両輪で支える必要があります。



全国診療所 診療科目別開業ランキング
2025年1月～3月

全国診療所 診療科目別開業ランキング

次に2025年1月から3月に開業した診療所を診療科目別に見てみました。
その結果、次のような結果となりました。

診療所 / 2025年1月～3月		
	診療科目	開業数
		844
1	歯科診療所	268
2	内科	254
3	形成・整形・美容外科	52
4	小児科	51
5	皮膚科	47
6	心療内科・精神科	44
7	眼科	35
8	耳鼻いんこう科	27
9	産科・婦人科・助産	24
10	外科	14
11	泌尿器科	14
12	脳神経内科・外科	8
13	麻酔科	4
14	リハビリ	1
15	人工透析科	1
16	その他診療所	9

ランキングでは、歯科診療所(1位・268件)と内科(2位・254件)が突出しており、いずれも日常生活に密着した“身近な医療”として、安定した開業ニーズが続いています。

続く形成・整形・美容外科(3位・52件)や心療内科・精神科(6位・44件)の伸びからは、美容やメンタルヘルス分野への関心の高まりがうかがえます。

また、小児科(4位・51件)や皮膚科(5位・47件)といった、幅広い年代に対応する診療科も上位に入り、日常的・予防的な診療の重要性が反映された結果となりました。

診療科目別ランキング × 医療トレンド × 地域特性

診療所の開業傾向を診療科目ごとに分析することで、医療ニーズの変化や地域特性がより鮮明に見えてきます。このセクションでは、2025年1～3月に新たに開業した診療所を対象に、診療科目別の開業数を集計。

歯科や内科といった基幹科目に加え、美容医療や心療内科など、近年注目が高まる科目の動向にも注目し、社会背景やエリア特性を交えながら、開業の“実態”をひも解きます。

◎ 医療制度改革と開業スタイルの変化

・診療報酬改定では、テナント開業・医療モールへの出店が促進され、都心部では駅前ビルや築浅ビルへのクリニック開設が加速しています。

・M&Aによるクリニック承継も年々増加し、事業承継をきっかけとした開業が新たな潮流に。



「診療報酬改定」とは？

「医療DX推進体制整備加算」が新設され、オンライン資格確認、電子処方箋、電子カルテ情報共有の整備状況に応じて点数が評価されるようになりました。また、マイナ保険証の利用率や電子処方箋導入状況をクリアすると医科初診に8～12点が上乗せされる仕組みです。

この制度により、開業時からデジタル環境を整備する診療所が増加傾向にあり、特にランキング上位の科目では、DX対応を訴求ポイントにした開業スタイルが注目されています。

出典：

- ・厚生労働省 保険局医療課「医療DX推進体制整備加算・医療情報取得加算の見直しについて」(令和6年度診療報酬改定)
- ・厚生労働省「令和6年度診療報酬改定の概要」

◎ デジタル医療の普及が進展

政府主導による医療DX推進(電子カルテ標準化、遠隔診療普及)により、開業時からデジタル対応を前提とした“小規模&D-to-C型クリニック”が増加傾向にあります。



「D-to-C型クリニック」って？

D-to-C(Direct-to-Consumer)型

患者と直接的な関係性を構築する診療モデルで、SNS・Web予約・LINE連携などを通じてネット経由で集患します。自由診療(美容医療・AGA・ピル処方・メンタルケアなど)との相性がよく、オンライン問診やキャッシュレス決済なども導入しやすい点があります。

診療科目別ランキング × 医療トレンド × 地域特性

◎ メンタルヘルス市場の拡大

・心療内科・精神科では44件の開業があり、日本のメンタルヘルスマーケットは2024年に265億ドル規模に達し、2025年以降も年率3.7%成長の見通しです。

・WHOも「精神衛生政策の変革」を強く提言しており、精神科領域のクリニック開業熱は国際的にも高まっていると言えるでしょう。

・日本ではパーソナライズ精神医療や地域ベースの相談センター強化などが議論されており、心療・精神科の開業はこの流れと連動しているのではないのでしょうか。

地域特性 × 開業動向

■ 都市部(東京・大阪など)

大都市圏では、自由診療ニーズの高まりやインバウンド回復を受けて、形成外科・美容皮膚科・AGA・心療内科といった専門特化型のクリニックが集中的に開業。歯科診療所のうち、審美やホワイトニング、マウスピース矯正など自費診療を軸としたクリニックが目立ち、駅直結や再開発エリア、商業施設内といった集客性とブランディングに優れた立地が選ばれています。インバウンド対応やキャッシュレス対応も進み、“選ばれるクリニック”づくりが進行中です。

■ 郊外・住宅地

郊外エリアやベッドタウンでは、生活動線に沿った「かかりつけ医」ニーズが根強く、一般歯科・小児科・皮膚科・整形外科・耳鼻科などの開業が活発です。保育園・学校・高齢者施設との距離や、駅からの徒歩圏内といった日常の利便性が立地選定において重視されます。

■ 地方・高齢化地域

高齢化が進む地域では、内科・眼科・リハビリ科・訪問歯科を含む歯科診療所など、高齢者の日常的な健康管理に対応する科目が中心です。

閉院後の引き継ぎや承継開業も多く、地域医療を守る開業が増えています。また、通院困難な患者に対応する訪問診療や送迎サービスを導入する施設も増加しています。

全国歯科診療所 開業ランキング

次に歯科診療所に注目し、2025年1月から3月に開業した歯科診療所を都道府県別に見てみました。その結果、次のような結果となりました。

歯科診療所 / 2025年1月～3月					
都道府県		合計			
		268	24	秋田県	2
1	東京都	57	24	栃木県	2
2	大阪府	38	24	岩手県	2
3	神奈川県	24	24	高知県	2
4	千葉県	20	24	徳島県	2
5	福岡県	14	29	青森県	1
6	埼玉県	11	29	愛媛県	1
6	兵庫県	11	29	大分県	1
8	愛知県	10	29	山口県	1
9	京都府	7	29	島根県	1
10	北海道	5	29	佐賀県	1
10	沖縄県	5	29	長崎県	1
10	滋賀県	5	29	宮崎県	1
13	広島県	4	29	静岡県	1
13	鹿児島県	4	29	和歌山県	1
13	三重県	4	29	福井県	1
13	福島県	4	29	長野県	1
17	岡山県	3	29	山形県	1
17	熊本県	3	29	茨城県	1
17	岐阜県	3	43	鳥取県	0
17	奈良県	3	44	富山県	0
17	新潟県	3	45	石川県	0
17	群馬県	3	46	山梨県	0
17	香川県	3	47	宮城県	0

2025年1月～3月に開業した歯科診療所は全国で268件。

東京都(57件)、大阪府(38件)など都市部での開業が目立つ一方、20県以上で1件以下という、地域差が大きく出る結果となりました。

なぜ今、都市部に歯科が集まるのか？

● インプラント・審美・マウスピース矯正の市場成長

■マウスピース矯正市場の急成長

近年、目立たず歯並びを整えられる「マウスピース矯正」が人気を集め、世界的にも市場が拡大中です。日本でも治療実績が1万人を超えるサービスが登場し、注目が高まっています。

一方で、料金の不透明さや通院中断といった課題もあり、わかりやすい価格設定や継続しやすい体制が成功のポイントとされています。

こうした流れを受け、都市部では自由診療を中心とした小規模な歯科クリニックの開業が増加しています。

■審美・予防・訪問歯科の伸び

審美歯科・矯正歯科の市場では、ホワイトニングや矯正治療が中でも関心を集めており、予防ケアへの意識も高まっています。

訪問歯科診療は高齢化進行に伴い重要性が増し、日本の歯科健診受診率は50%超、予防ニーズも拡大中です。

■デジタル化・機器市場の拡大

日本国内の歯科用機器市場は、2024年に約58億ドル、2029年には約73億ドルまで成長すると予測されています。

また、3DプリンターやAI診断などを活用したデジタル歯科への注目も高まっています。

● 駅近ビル×1人開業の増加

最近では、駅から近いビルや商業施設の中に、歯科医院を開業するケースが増えています。こうした立地は、通勤・通学のついでに立ち寄れることから、患者にとっても通いやすく、利便性が高いのが特徴です。

また、開業する歯科医師は30～40代の比較的若い世代が中心で、「チェア(診察台)は2台まで」「スタッフは少人数」「自由診療を中心にする」といった、コンパクトで効率的な運営スタイルが目立ちます。

患者との距離が近く、丁寧な対応を重視することで、口コミや紹介で来院者を増やすスタイルが根づいてきているようです。

地方ではなぜ歯科開業が進まないのか？

■人口減少と後継者不足で採算が難化

地方では高齢化と人口減少が進み、通院できる患者数が限られています。これにより、新規開業の採算性が低く、開業をためらうケースが多く見られます。

■ 既存医院との競合も課題に

すでにある歯科医院との患者の奪い合いも深刻で、診療圏調査では一人当たりの患者数が分散し、共倒れのリスクが高まっている地域もあります。

■ 訪問歯科のニーズはあるが、ハードルも高い

訪問歯科や移動診療車の需要は確実に存在しますが、負担やコストが大きく、若手医師にとっては導入のハードルが高いのが現状です。

■ 支援と承継が今後のカギ

こうした背景から、歯科診療の空白地帯が広がっており、自治体の支援制度や、既存医院の承継による開業支援が、今後ますます重要になると考えられます。

歯科の今後のキーワードは？



■ ライフステージ別ニーズへの対応

予防歯科や子ども矯正、訪問歯科など、世代ごとのニーズに応じた診療が今後の軸に。子どもには早期矯正、大人には審美治療、高齢者には在宅対応と、専門性の明確化が求められています。

■ DX(デジタル化)の標準化

電子カルテ、Web予約、キャッシュレス決済など、開業時点でDXを導入する医院が増加。効率化だけでなく、スタッフの負担軽減や患者満足にもつながっています。

■ 地方では“新規”より“承継”が主流に

地方の歯科医院では、新規開業よりも後継者不在の医院を引き継ぐ「承継開業」が増加。今後は、自治体の支援制度やM&Aを通じた開業のあり方がより注目されるでしょう。



全国医療開業レポート ver1 まとめ



医療の進化と挑戦 — 開業データで読み解く“いま”と“これから”

医療の現在地とこれから — 地域と人をつなぐ新たな挑戦へ

病院・診療所は、日々の暮らしの中で「健康」と「安心」を支える最前線の存在です。

2025年1月～3月のデータを振り返ると、全国で863件の病院・診療所が新たに開業しました。そのうち3月に開業した件数は353件(全体の41%)にのぼり、例年通り、年度末に向けての開業集中が際立つ結果となりました。

一方で、医療機関の倒産・閉院も過去最多水準に達しており、開業と閉業が交錯する“変化の時代”に入っていることが浮き彫りとなっています。



開業数は堅調も、二極化する医療現場

都道府県別では東京都(190件)・大阪府(119件)・神奈川県(68件)が上位を占め、都市部での自由診療や専門特化型クリニックのニーズが高まっていることがわかります。

一方で、地方部では承継開業や閉院後の地域医療継続といった課題が表面化。医療リソースの偏在や、医師の高齢化による“自然減”も進んでおり、地域間格差が広がりつつあります。

人口構造と医療ニーズの変化

総務省の最新推計によれば、65歳以上人口は約3,619万人(全体の29.3%)。

日本は世界に類を見ない超高齢社会に突入しています。

こうした中、内科や眼科、皮膚科、心療内科といった生活密着型の診療科の開業が多く、「地域のかかりつけ医」や「在宅・訪問対応」など、日常を支える医療への期待が高まっています。

また、マウスピース矯正の需要増加や女性医師による新業態開業など、ライフスタイルや価値観の変化に対応した開業形態も目立ち始めています。



医療を、未来へつなぐ。

すべての「いのち」と「まち」のために。

医療機関の開業は、ただの「スタート」ではありません。
それは、いのちを支え、地域を支える“覚悟”の現れです。

病を診るだけでなく、不安に寄り添い、社会の希望を形づくる。
そんな存在が、今日も全国各地に生まれています。

医療機関の開業は、単なる“開く”という行為にとどまりません。
それは、地域医療を未来へと「つなぐ」挑戦でもあります。

都市部と地方、高齢者と子ども、対面診療とオンライン医療、開業と承継——
医療現場には、あらゆる境界を越えて価値をつなぐ視点が求められています。

そして今、気づかねばならないのは、
こうした挑戦の背景にある、現場のリアルと静かな決意です。

物価高、人材不足、承継問題、地域医療の崩壊リスク…。

それでもなお、医療の灯を絶やさぬよう、
一歩を踏み出す医師たちの姿が、全国で確かに見えています。

このレポートが、皆さまにとって、
地域の魅力や医療の可能性を再発見するきっかけとなれば幸いです。

未来を支える医療を、次の世代へつなぐために——
業界のさらなる発展を願い、このレポートをお届けいたします。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当:五味川
E-mail:gomikawa@re-view.co.jp
TEL:06-7730-9109

Re:view